

◇ 編集後記 ◇

本誌は、本号を以って終刊となる。四十号まで発行し続けることができたのは、ひとえに永らくご購入いただいた皆様のご支援の賜物である。厚く御礼申し上げたい。最終号を飾るべく、これまで横浜国立大学国語・日本語教育学会を盛り立て支え続けてくださった先生方、修了生、院生に自由な形でご寄稿、ご投稿頂いた。収録させて頂いた論文と随想からは、今日に至る迄の変遷に加えて、皆様のご研究や教育への取り組みと想いが読み取れる。大学は時代のニーズに応え、さまざまな変革が求められる。横浜国立大学の教育学部や教育学研究科も変貌を遂げてきた。これまで本誌には、国語と日本語教育の各専門領域に特化した研究に加えて領域をクロスしたのも収められてきた。コロナ感染拡大状況に至る直前まで、本学会の研究発表会が毎年開催され、異領域の学生が一堂に会し議論したこともあった。学会としては、ある意味ちよつと特殊で先駆的なものであったと言えるのかもしれない。近年は、文理融合を促すリベラルアーツ、STEAM教育など、多面的で横断的な教育が求められている。ますます専門の枠に縛られない学際的な交流が必要な時代となるであろう。このたびの解散は残念なことではあるが、本誌で語られてきた情熱が消えてなくなるわけではなく、形を変えて息づき発展し続けるのである。またどこかでお会いしましょう。

(橋本)